

アーカイブズの三原則に基づいた情報アーキテクチャの設計

芦川 大樹

近年、「デジタルアーカイブ」という言葉は一般に浸透しつつあり、様々なデジタルアーカイブが公開されている。しかし、現在デジタルアーカイブという言葉は、単なるデジタル資料を保管・提供するサービスの総称として利用されることが多く、ここには、本来の意味での「アーカイブズ」の姿は見られない。本来、アーカイブズ資料は、「史料の整理に関する三原則」を適用することが必要とされている。アーカイブズの三原則は、「出所原則」「原秩序尊重原則」「原形保存原則」からなり、アーカイブズ資料を歴史文化遺産・知的情報資源として保存するための整理の手法が示されている。

そこで、本研究は、「図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ」の資料を対象に、アーカイブズの三原則に基づいた情報アーキテクチャを設計することによって、アーカイブズ本来の意味としてデジタルアーカイブを構築することを目的とする。本システムでは、資料に到達するまでに出所機関の選択、資料群の選択、資料の選択と、階層に則った検索を行わせることでアーカイブズの三原則を表現し、資料の持つまとまりや情報を提示することを図った。

構築したシステムがアーカイブズの三原則に基づいて構築されているか、即ち、資料の持つまとまりや情報が表現できているかを検証するために、評価実験を行った。実験はシステムの使用とアンケートからなり、アンケートではデジタルアーカイブについての意識調査及びシステムの評価を行った。実験の結果、デジタルアーカイブについては、デジタル化は必要だが原本資料も重視すべきである、との意見が得られた。本システムについては、アーカイブズの三原則に基づいた情報空間は、求める資料が出所に起因したものであれば、有用であるという評価が得られた。既存の探索手法と組み合わせることで、デジタルアーカイブの表現にさらに広がりを持たせることができるだろう。

以上の結果から、デジタル資料に原本同様の原則を適用することで、デジタルアーカイブをアーカイブズ本来の意味として構築できると示すことができた。今後の課題として、デジタルアーカイブ特有の技術の研究や、永久保存の概念の導入方法の検討等を通じ、デジタルアーカイブのあるべき枠組みについて、さらに考察を重ねていく必要がある。

(指導教員 宇陀則彦)